

尾道市の財政状況をお知らせします

令和7年度決算（見込み）

財政局課（☎0848-38-9323）

※表示未満の端数を四捨五入しているため、金額・構成比は合計値に合致しない場合があります。

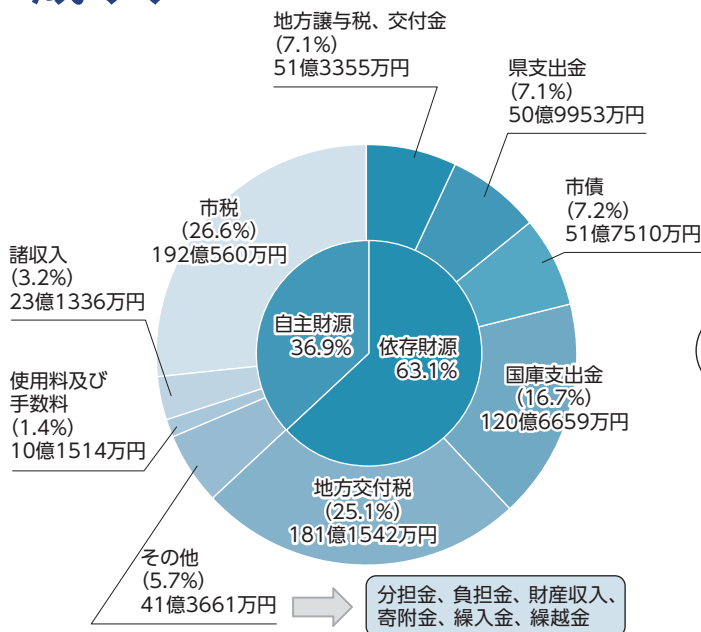
一般会計決算（見込み）

福祉や教育、道路整備など市民生活に直接関係する事業を行う会計です。

$$\text{歳入 722億6090万円} - \text{歳出 714億5172万円} = \text{差引 8億918万円}$$

（前年度比 +1億4573万円）

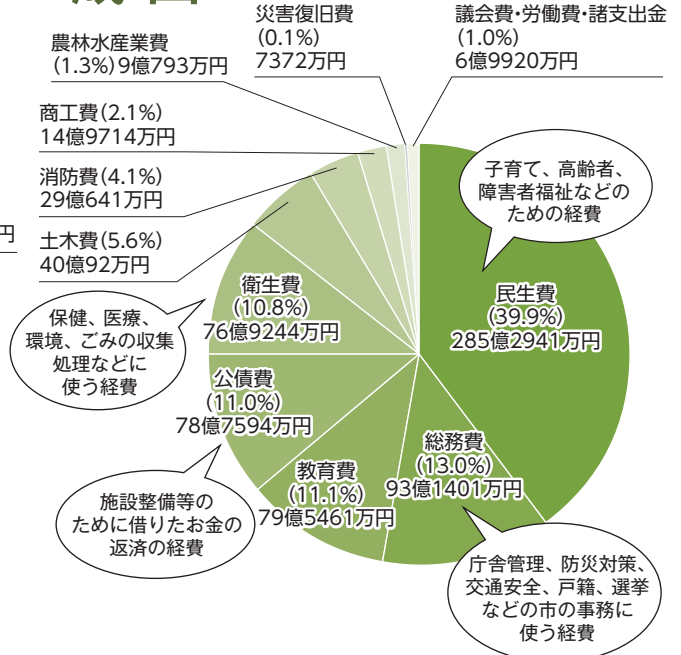
歳入



歳入は、地方特例交付金や繰入金などの減少はありますが、市税や地方交付税の増加などにより、前年度と比較して**38億4541万円増加**しています。

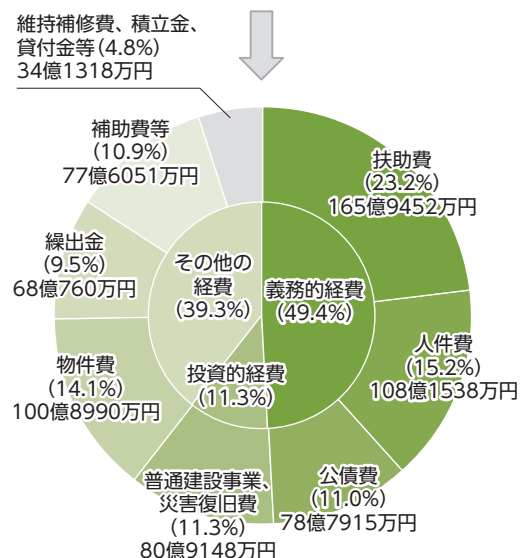
自主財源の柱となる市税収入は192億560万円で、15億3374万円増加しています。

歳出



歳出は、給付金事業などの減少はありますが、学校給食施設整備事業やみどり認定こども園建設事業などの増加により、前年度と比較して**36億9968万円増加**しています。

歳出を性質別に見てみると…



市民の負担とサービスの状況

市民1人当たりの
市税負担額

市民1人当たりの
サービス額



市税のほかに国や県からの補助金などを活用して、行政サービスを実施しました。

※（ ）内は、前年度比。

※令和8年3月末住民基本台帳人口123,584人で計算。

令和7年度の予算は主にこのようなことに使われました

物価高騰対策事業

主な事業

物価高騰重点支援臨時給付金事業	7億1934万円
物価高対応子育て応援手当	3億2245万円
介護サービス・ 障害者福祉事業所等支援事業	3273万円
私立保育施設等物価高騰対策支援事業	1323万円



尾道市学校給食センター整備事業
18億4690万円

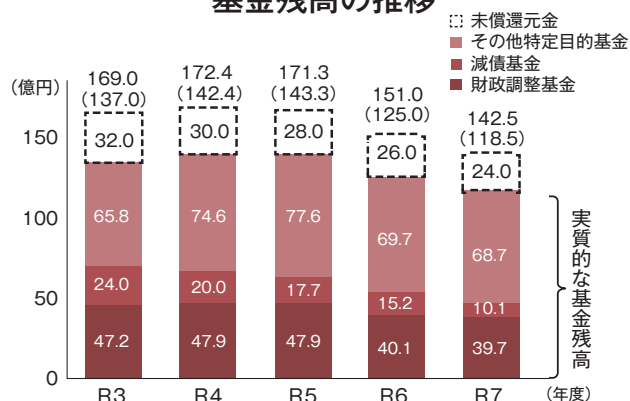


みなり認定こども園建設事業
9億1334万円

私たちのまち“尾道”の財政状況を見てみましょう

※普通会計の数値で作成しています。

基金残高の推移

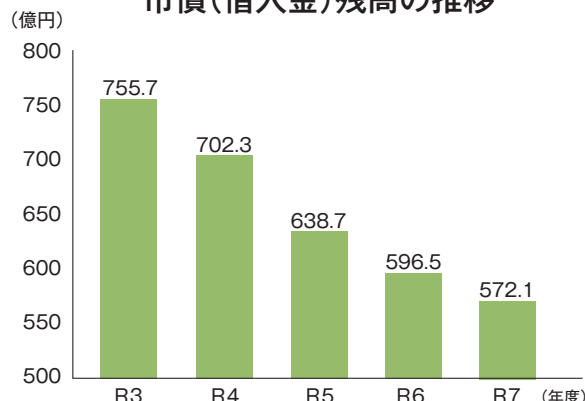


令和7年度末現在 基金残高 142億5299万円

市は災害や市税収入の減少などに備えて基金を積み立てています。基金残高は、前年度より8億4611万円減少しています。

※地域振興基金(40億円)のうち、38億円は合併特例債の借入により積み立てているため、未償還元金を除いた額を実質的な基金残高(棒グラフ上部カッコ内の数値)として表示しています。

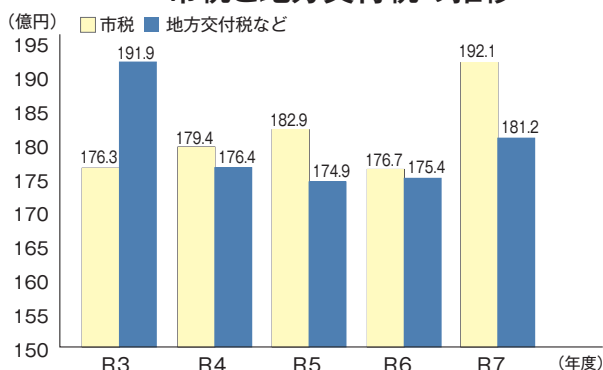
市債(借入金)残高の推移



令和7年度末現在 市債残高 572億709万円

大規模事業のための借入の減により、市債残高は前年度より24億3865万円減少しています。

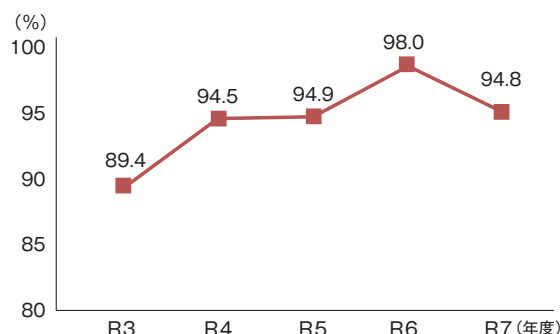
市税と地方交付税の推移



令和7年度 市税 192億560万円
地方交付税など 181億1542万円

市税収入、地方交付税など(実質的な地方交付税として臨時財政対策債を加えたもの)は増加しました。

経常収支比率の推移



令和7年度 経常収支比率94.8%

家計でいえば、年間を通じて受け取る給料からの支払のうち、食費・光熱水費・ローン返済など決まって支払う生活費が占める割合のことです。数値が高いほど財政にゆとりがなく硬直化していることを表します。前年度より3.2ポイント改善しました。

用語の説明

普通会計	他市との財政比較を行うための統計上の会計。尾道市では、一般会計に港湾事業特別会計、夜間救急診療所事業特別会計を合わせたもの。
市税	市民税、固定資産税・都市計画税、軽自動車税、たばこ税など。
地方交付税	自治体の財政状況に応じて交付される国からの財源。
臨時財政対策債	国税収入が減少し、普通交付税を配分する財源が不足した場合、その不足分を補うために発行する市債。
市債	施設整備等のために国や金融機関から借り入れたお金。

都市計画事業に要する経費と都市計画税

(単位:千円、%)

都市計画税は、都市計画事業(街路、公園、下水道など)の費用に充てるために負担していただく税金です。
令和7年度は、街路、下水道などの事業と都市計画事業のために借り入れた地方債の償還に充てられました。
事業に充当された一般財源に占める都市計画税の割合は、94.7%となっています。

年度	都市計画事業費	地方債償還額	計	充当一般財源 A	うち都市計画税 B	充当率 B/A
R5	1,066,307	198,348	1,264,655	1,188,171	1,151,532	96.9
R6	1,249,657	179,771	1,429,428	1,265,437	1,143,255	90.3
R7	1,265,894	151,029	1,416,923	1,215,174	1,150,791	94.7

特別会計決算(見込み)

特定の事業を行うために一般会計とは別に独立して経理が行われる会計です。令和7年度は8つの特別会計があります。

区 分	歳入額	歳出額	差引額
港湾事業	2億64万円	1億8800万円	1264万円
国民健康保険事業	137億9691万円	137億5122万円	4569万円
千光寺山索道事業(※1)	6619万円	6619万円	0円
駐車場事業	8081万円	8081万円	0円
夜間救急診療所事業	8792万円	8792万円	0円
介護保険事業(保険事業勘定)	170億2787万円	168億6568万円	1億6219万円
介護保険事業(介護サービス事業勘定)	2082万円	2082万円	0円
渡船事業	5562万円	5562万円	0円
後期高齢者医療事業	29億1038万円	28億4408万円	6630万円
合 計	342億4716万円	339億6034万円	2億8682万円

※1 ロープウェイ。

財政の健全度

健全化判断比率

令和7年度決算に基づく各比率は、すべて国の基準を下回っており、尾道市の財政はおおむね健全です。

家計に例えると…		0%	[安全]	↓	[注意]	↓	[危険]
実質赤字比率	世帯主の年間収入に対する赤字額の割合	赤字無し(赤字無し)			11.52%		20.0%
連結実質赤字比率	世帯主の年間収入に対する世帯員全員の赤字額の割合	赤字無し(赤字無し)			16.52%		30.0%
実質公債費比率	世帯主の年間収入に対するローン返済額の割合		7.8%(8.3%)		25.0%		35.0%
将来負担比率	世帯主の年間収入に対する債務(将来的に負担することが決まっているローン残高など)の割合		14.6%(10.3%)		350.0%		

※●⇒尾道市 ※()内は令和6年度

指 標	解 説
実 質 赤 字 比 率	標準財政規模(※1)に対する普通会計(※2)の赤字の割合
連結実質赤字比率	標準財政規模に対する全会計の赤字の割合
実 質 公 債 費 比 率	標準財政規模に対する公債費(※3)の割合
将 来 負 担 比 率	標準財政規模に対する市が将来負担すべき負債の割合

- ※1 地方公共団体が標準的な行政サービスを提供するために必要な一般財源(使い道の決まっていない財源)の大きさ。
※2 一般会計に港湾事業・夜間救急診療所事業特別会計を加えたもの。
※3 地方公共団体が借り入れた地方債の元利償還金。

資金不足比率

公営企業ごとの収入に対する赤字額の割合です。尾道市は、すべての公営企業で赤字は発生していません。今後も、引き続き持続可能な財政運営に努めていきます。

水道事業

関上下水道局経営総務課（☎0848-37-8701）

【収益的収支】

事業収益では、業務用を中心に給水収益が改善するとともに、受託管理収益の増加などにより、6414万8千円（1.8%）の増収となりました。一方、事業費用では、久山田野水池からの取水量増加に伴い、受水費が減少したものの、修繕費や減価償却費などの増加により、9114万3千円（2.6%）の費用増となりました。その結果、収支差引8872万8千円の純利益を計上することとなりました。

【主な建設改良事業】

明現配水池築造工事を施工するとともに、老朽化した管路の更新により耐震化を行いました。

損益計算書 R7.4.1～R8.3.31

（単位：千円）

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
職員給与費	368,834	水道料金収入	3,125,566
物件費	489,108	受託工事収益	2,534
受水費	1,438,439	受託管理収益	178,144
支払利息	75,994	長期前受金戻入	250,893
減価償却費	1,012,767	その他	97,097
その他	180,318	特別利益	0
特別損失	46		
当年度純利益	88,728		
合計	3,654,234	合計	3,654,234

今後、給水収益の増加を期待することが難しい状況にありますが、尾道市上下水道事業ビジョンやアセットマネジメントを基軸として、中長期的展望を視野に入れた持続可能で強靱な事業の構築を図りつつ、安全で良質な水の安定供給の継続に努めてまいります。

貸借対照表 R8.3.31現在

（単位：千円）

借方（資産の部）		貸方（負債資本の部）	
科目	金額	科目	金額
有形固定資産	26,360,896	固定負債	5,822,950
無形固定資産	2,571	流動負債	804,922
流動資産	3,235,468	繰延収益	4,549,620
		資本金	15,490,906
		資本剰余金	638,270
		利益剰余金	2,292,267
		建設改良積立金	1,500,000
		当年度未処分利益剰余金	792,267
		繰越利益剰余金	503,539
		その他未処分利益剰余金変動額	200,000
		当年度純利益	88,728
合計	29,598,935	合計	29,598,935

下水道事業

関上下水道局経営総務課（☎0848-37-8701）

【収益的収支】

事業収益では、排水戸数の増に伴う下水道使用料の増加などにより、5245万4千円（2.8%）の増収となりました。一方、事業費用では、処理場の委託料や減価償却費などの増加により、6852万9千円（3.9%）の費用増となりました。その結果、収支差引8030万6千円の純利益を計上することとなりました。

【主な建設改良事業】

下水道計画区域内の未普及地区解消や雨水の適正処理のため、栗

損益計算書 R7.4.1～R8.3.31

（単位：千円）

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
職員給与費	129,841	下水道使用料収入	454,947
物件費	536,087	雨水処理負担金	273,907
支払利息	104,138	受託事業収益	174,940
減価償却費	946,676	長期前受金戻入	522,728
その他	108,575	その他	479,101
特別損失	0	特別利益	0
当年度純利益	80,306		
合計	1,905,623	合計	1,905,623

原地区・新浜地区・天満地区を中心に管渠築造工事を行いました。

今後は、老朽化した施設の更新による資金需要の増大が見込まれますが、尾道市上下水道事業ビジョンやストックマネジメント計画を基軸とし、引き続き普及地区拡大に向けた管渠整備を図りつつ、コスト意識を持ちながら効率的な経営に努めてまいります。

貸借対照表 R8.3.31現在

（単位：千円）

借方（資産の部）		貸方（負債資本の部）	
科目	金額	科目	金額
有形固定資産	26,574,118	固定負債	9,428,104
無形固定資産	2,780	流動負債	1,042,986
流動資産	840,814	繰延収益	13,515,911
		資本金	2,090,640
		資本剰余金	1,174,074
		利益剰余金	165,997
		当年度未処分利益剰余金	165,997
		繰越利益剰余金	85,691
		当年度純利益	80,306
合計	27,417,712	合計	27,417,712

病院事業

関市民病院経営企画課（☎0848-47-1155代）

公立みつぎ総合病院経営企画課（☎0848-76-1111代）

【収益的収支】

市民病院は、その他特別利益を含め、事業収益79億5208万1千円に対し、事業費用81億9469万円で、差引2億4260万9千円の損失が生じました。

公立みつぎ総合病院は、その他特別利益を含め、事業収益67億8413万3千円に対し、事業費用67億8400万2千円で差引13万円の純利益を計上しました。

【市民病院】

地域の医療機関と連携し、医師を中心とした多職種協働によるチーム医療を実践し、安全で質の高い医療の提供に努めました。また、高度・多様化する医療需要に対応するため、手術支援ロボットを導入するとともに、X線透視撮影装置をはじめ、超音波手術器、超音波画像診断装置、麻酔器などの各種医療機器の更新を行い、病院機能の強化と患者サービスの向上に努めました。

【公立みつぎ総合病院】

地域包括ケアシステムの構築により、救急医療及び疾病の治療から

損益計算書 R7.4.1～R8.3.31

（単位：千円）

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
職員給与費	9,416,383	入院収益	6,932,812
物件費	1,658,522	外来収益	2,171,702
支払利息	40,967	その他医療収益	1,475,074
その他	3,855,965	その他	2,879,768
特別損失	6,856	特別利益	1,276,858
当年度純利益	△242,479		
合計	14,736,214	合計	14,736,214

地域住民の健康づくり、介護予防、リハビリテーション、在宅ケア、さらに介護・福祉までのシームレスなサービスを提供してまいりました。主な事業として、総合医療情報システムや内視鏡システムをはじめとする医療機器などの更新を行い、医療提供体制の充実を図りました。

医療分野を取り巻く環境は、依然として厳しい状況が続いておりますが、診療報酬の適切な算定や病診連携の強化、業務の見直しなどにより、経営基盤の強化に努めております。引き続き、公立病院が担うべき役割・機能を明確化し、地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供するため、医療提供体制の更なる充実と経営の効率化を推進し、地域の中核病院としての役割を果たしてまいります。

貸借対照表 R8.3.31現在

（単位：千円）

借方（資産の部）		貸方（負債資本の部）	
科目	金額	科目	金額
有形固定資産	11,307,383	固定負債	7,218,835
無形固定資産	1,969	流動負債	2,439,040
投資	520,064	繰延収益	1,749,648
流動資産	7,361,334	資本金	8,399,181
		資本剰余金	212,465
		利益剰余金	△828,419
		減債積立金	438,000
		建設改良積立金	100,000
		当年度未処分利益剰余金	△1,366,419
		繰越利益剰余金	△1,123,940
		当年度純利益	△242,479
合計	19,190,750	合計	19,190,750